

平群町で建設中の大規模太陽
光発電所に係る令和8年6月
18日大阪高裁判決に対する
奈良県の対応について

令和8年7月6日

奈良県知事 山下 真

1 事案の概要

(1) 建設主体

協栄ソーラーステーション合同会社
(本社：東京)

本件裁判に参加人として関与

(2) 発電所の規模

開発対象面積：約 2.2 ha

そのうちパネル設置部分の面積：約 1.6 ha

1 事案の概要

(3) 今日に至る経緯

平成31年4月8日

林地開発許可申請

令和元年11月1日

奈良県による許可

令和3年2月16日

上記許可に係る変更申請

令和3年3月8日

奈良地裁に対し建設工事

差止訴訟提訴

1 事案の概要

(3) 今日に至る経緯

令和3年6月15日

申請内容に誤りがあることがわかり、奈良県が工事の停止を求める行政指導→参加人は工事停止及び応急防災対策工事実施

1 事案の概要

(3) 今日に至る経緯

令和4年9月1日

令和元年許可に係る変更申請

令和5年1月31日

奈良県森林審議会が申請内容を認める

令和5年2月24日

荒井正吾前奈良県知事が変更申請を許可

令和5年5月3日

山下真奈良県知事が就任

1 事案の概要

(3) 今日に至る経緯

令和5年8月23日

奈良地裁に対し許可取消訴訟提起

令和5年9月25日

建設工事再開

令和7年3月25日

奈良地裁判決

令和8年6月18日

大阪高裁判決

2 本件許可の概要

- (1) 根拠条文 森林法 10 条の 2
- (2) 許可基準 林地開発許可制度の手引き
(令和 2 年度が直近の改訂)
- (3) 本件で争点となった調整池の容量に関する規定

7 洪水調節池等の設置

下流の流下能力を超える水量が排水されることにより災害が発生するおそれがある場合には、洪水調節池の設置その他の措置が適切に講ぜられていること。 (林野庁の運用基準の引用)

2 本件許可の概要

7 洪水調節池等の設置の続き

(1) 洪水調節容量は、下流における流下能力を考慮の上、30年確率で想定される雨量強度における開発中及び開発後のピーク流量を開発前のピーク流量以下にまで調節できるものであること。また、流域の地形、地質、土地利用の状況等に応じて必要な堆砂量が見込まれていること。 **（林野庁の運用細則の引用）**

「下流におけるおける流下能力を考慮の上」とは、開発行為の施行前において既に3年確率で想定される雨量強度におけるピーク流量が下流における流下能力を超えるか否かを調査の上、必要があれば、この超える流量も調節できる容量とすることとする。 **（林野庁森林整備部長通知の引用）**

2 本件許可の概要

7 洪水調節池等の設置の続き

(2) 省略

(3) 洪水調節の方式は、原則として自然放流方式であること。

なお、洪水調整池の設置は、原則として県土マネジメント部河川課の指導によるほか下記の基準によること。

- ① 「防災調整池等技術基準（案）」（昭和62年3月住宅・都市整備公団、地域振興整備公団、日本河川協会）
- ② 「大規模宅地開発に伴う調整池技術基準（案）」（昭和62年3月住宅・都市整備公団、地域振興整備公団、日本河川協会）

2 本件許可の概要

(4) 本件で争点となった調整池の容量に関する規定の整理と評価

具体的に洪水防止に必要な調整池の容量を計算して決める基準としては、「県土マネジメント部河川課の指導」に係る

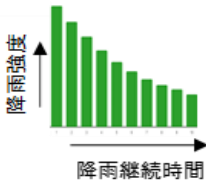
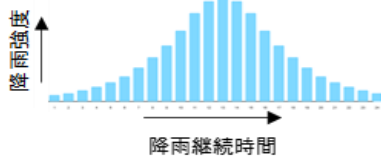
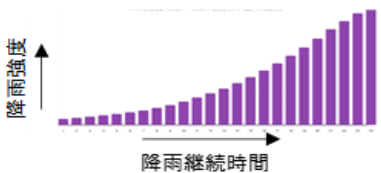
①宅地及びゴルフ場等開発に伴う調整池技術基準（平成2年改訂）（奈良県作成）→「**ゴルフ場基準**」と略称

②大和川流域調整池技術基準（奈良県作成）→「**大和川基準**」と略称

③「防災調整池等技術基準（案）」→「**恒久施設基準**」と略称

④「大規模宅地開発に伴う調整池技術基準（案）」→「**暫定施設基準**」と略称

2 本件許可の概要

基準	降雨確率	降雨強度式の算出対象年	降雨波形	降雨継続時間	最終改訂年月
ゴルフ場基準 (奈良県)	50年に一度 (市街化調整区域)	大正5年～昭和55年 ^{※2}	前方集中型 	10時間	平成2年5月
大和川基準 ^{※1} (奈良県)	50年に一度 (市街化調整区域)	大正5年～昭和55年 ^{※3}	中央集中型 	24時間	平成30年3月
恒久施設基準 (住宅・都市整備公団 地域振興整備公団 日本河川協会)	50年に一度	大正5年～昭和55年	後方集中型 	24時間以上	昭和62年3月
暫定施設基準 (住宅・都市整備公団 地域振興整備公団 日本河川協会)	30年に一度	大正5年～昭和55年	中央集中型 または 後方集中型	24時間を標準	昭和62年3月

※1 大和川基準は簡易方式（定数法）のみ

※2 平成15年に、大正5年～平成14年（S57降雨含む）の実績降雨で検討したが、140mm/10hとなり、大正5年～昭和55年の実績降雨による147mm/10hを下回る結果となったことから、見直しはせず、昭和57年を含まない大正5年～昭和55年のよる算出結果（147mm/10h）を引きつづき採用

※3 平成15年に、大正5年～平成14年（S57降雨含む）の実績降雨で検討したが、192mm/24hとなり、大正5年～昭和55年の実績降雨による195mm/24hを下回る結果となったことから、見直しはせず、昭和57年を含まない大正5年～昭和55年のよる算出結果（195mm/24h）を引きつづき採用

3 大阪高裁判決の概要

本件で調整池の容量を決めることになった基準はゴルフ場基準であるところ、

(1)本件開発地周辺では、ゴルフ場基準の10時間総雨量147ミリを上回る降雨量（午前0時～午後12時の総雨量）を記録した日が令和7年7月までの過去49年間で5回観測されており（本件変更許可の時点までも4回）、災害が発生するおそれがある。

3 大阪高裁判決の概要

大阪府生駒山観測所（開発地より3 km程度）

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	統計期間
日降水量 (mm)	275 (1999/8/11)	200 (2017/10/22)	156 (1982/8/1)	150.5 (2014/8/9)	150 (2023/6/2)	144 (2013/9/15)	143 (1982/8/3)	140 (2018/7/6)	139 (2015/7/17)	137 (1979/6/27)	Jan-76 Jul-25
日最大10分間降水量 (mm)	27 (2012/8/14)	21.5 (2021/7/15)	21 (2012/8/18)	20.5 (2016/9/6)	20 (2023/9/21)	18 (2024/8/4)	18 (2021/7/14)	18 (2019/9/4)	17.5 (2012/6/2)	17 (2019/7/23)	Feb-09 Jul-25
日最大1時間降水量 (mm)	75 (1999/8/11)	72.5 (2019/9/4)	67.5 (2012/8/18)	57 (2012/8/14)	53 (2021/7/15)	53 (2016/9/6)	52 (2005/8/20)	52 (2004/8/22)	51 (2013/10/9)	49.5 (2024/11/2)	Jan-76 Jul-25

統計期間1976年1月から2025年7月まで49年間で日降雨量が145mmを超えたのは5度あります。

当観測所の集計には24時間最大降水量のデータはありません。

3 大阪高裁判決の概要

(2)①本件開発地周辺の近年も含む降雨状況、②恒久施設基準、暫定施設基準、大和川基準のいずれも降雨継続時間は24時間であること等に鑑みれば、降雨継続時間を10時間とすることに合理性を見いだしがたい。

(3)本件許可処分の際に、本件開発地周辺の降雨状況を把握し、ゴルフ場基準の降雨継続時間を24時間と仮定して調整池の容量を試算することも可能であった。

3 大阪高裁判決の概要

等の点からゴルフ場基準の内容及び基準の本件への当てはめに不合理な点があり、それが看過しがたい程度に重大なものであると言わざるを得ない。

4 大阪高裁判決後の独自調査

(1)本件開発地に最も近い生駒山観測所における一日当たり最大降水量ではなく、24時間最大降水量（気象庁HPより。裁判でも検討されていない。）は、ゴルフ場基準の総雨量147ミリを超える日が10回ある。本県変更許可前だけでも8回ある。

生駒山（大阪府）

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	統計期間
日最大1時間降水量(10分間隔)の多い方から (mm)	75.5 (2026/6/26)	75 (1999/8/11)	69.0 (2019/9/4)	67.5 (2012/8/18)	57.0 (2012/8/14)	53.0 (2021/7/15)	53.0 (2016/9/6)	52 (2005/8/20)	52 (2004/8/22)	49.5 (2013/10/9)	1976/ 1 2026/ 6
月最大3時間降水量の多い方から (mm)	151 (1999/8/11)	99.0 (2026/6/26)	83 (1992/5/8)	80.0 (2019/9/4)	76.5 (2012/6/22)	76 (2004/5/13)	71.5 (2018/7/6)	67.5 (2021/8/12)	67.5 (2012/8/18)	66.5 (2023/6/2)	1976/ 1 2026/ 6
月最大6時間降水量の多い方から (mm)	258 (1999/8/11)	112.0 (2018/7/6)	110.0 (2026/6/26)	103 (1982/8/3)	99.5 (2013/9/16)	98 (1992/5/8)	96.0 (2014/8/9)	90.5 (2012/6/22)	90 (2004/10/20)	89.0 (2023/6/2)	1976/ 1 2026/ 6
月最大12時間降水量の多い方から (mm)	319 (1999/8/11)	165.5 (2013/9/16)	152.5 (2018/7/6)	149 (1982/8/3)	147.5 (2014/8/9)	134.0 (2017/10/22)	129 (1984/6/27)	122 (2004/10/20)	120.5 (2026/6/26)	117.5 (2023/6/2)	1976/ 1 2026/ 6
月最大24時間降水量の多い方から (mm)	320 (1999/8/11)	218.0 (2013/9/16)	200.0 (2017/10/22)	192.5 (2018/7/6)	180 (1982/8/2)	164.0 (2026/6/27)	160.5 (2014/8/9)	155.0 (2012/6/22)	151.0 (2023/6/2)	151 (1995/7/4)	1976/ 1 2026/ 6
月最大48時間降水量の多い方から (mm)	343 (1999/8/12)	287 (1982/8/3)	246.5 (2013/9/17)	238.0 (2018/7/6)	231 (1979/6/29)	224.5 (2017/10/23)	223.5 (2014/8/10)	205.5 (2026/6/27)	204 (1995/7/5)	201 (1976/9/10)	1976/ 1 2026/ 6
月最大72時間降水量の多い方から (mm)	346 (1999/8/13)	339 (1982/8/3)	275 (1979/6/30)	274 (1995/7/6)	259.5 (2018/7/7)	246.5 (2013/9/18)	231.0 (2017/10/23)	229.0 (2026/6/27)	224.0 (2014/8/11)	219 (1976/9/11)	1976/ 1 2026/ 6

4 大阪高裁判決後の独自調査

(2)令和8年6月23日～28日にかけて（台風7号及び8号接近時）の総雨量

降水量の期間合計値			▶ 地点順 ▶ 値の多い順12時00分現在		
都道府県	市町村	地点	期間合計値 mm	平年比 %	6月平年値 mm
大阪府	豊能郡能勢町	能勢（ノセ）	148.0)	82	181.2
大阪府	茨木市	茨木（イバラキ）	210.0)	97	216.9
大阪府	枚方市	枚方（ヒラカタ）	200.5)	103	194.2
大阪府	豊中市	豊中（トヨナカ）	187.0]	104]	180.1
大阪府	大阪市中心区	大阪（オオサカ）*	188.0)	102	185.1
大阪府	東大阪市	生駒山（イコマヤマ）	261.0)	122	213.6
大阪府	堺市堺区	堺（サカイ）	196.5)	120	164.1
大阪府	八尾市	八尾（ヤオ）	205.5)	138	149.0
大阪府	泉南郡田尻町	関空島（カンクウジマ）	142.0)	96	148.4
大阪府	河内長野市	河内長野（カワチナガノ）	227.5)	126	180.2
大阪府	泉南郡熊取町	熊取（クマトリ）	133.0)	79	167.7

5 本県の対応

以上より、上告はしない。